

笑気-酸素-セボフルランで全身麻酔した犬における 術中リドカイン静脈内持続投与によるセボフルラン 要求量の減少効果

伊丹貴晴¹⁾ 山下和人^{1)†} 福井 翔²⁾ 前原誠也¹⁾
都築圭子¹⁾ 廉澤 剛¹⁾ 泉澤康晴¹⁾

1) 酪農学園大学獣医学部 (〒069-8501 江別市文京台緑町582)

2) 酪農学園大学附属動物病院 (〒069-8501 江別市文京台緑町582)

(2009年8月7日受付・2010年1月12日受理)

要 約

犬臨床例52頭の全身麻酔にリドカイン持続静脈内投与 (CRI) を応用し, その麻酔要求量減少効果を検討した. 麻酔前投薬としてプロピオニールプロマジン0.05mg/kgを静脈内投与 (IV) し, カルプロフェン4mg/kgを皮下投与した. プロポフォール6mg/kg IVで麻酔導入し, 気管挿管後, 50%笑気-50%酸素-セボフルラン吸入麻酔で麻酔維持した. 供試犬26頭にリドカイン3mg/kg/時間CRIを投与し (LID-CRI群), 残りの26頭には投与しなかった (対照群). 外科麻酔の維持に要した終末呼気セボフルラン濃度は, LID-CRI群1.6%前後および対照群2.1%前後で推移し, LID-CRI群において有意に低かった ($P < 0.001$). 麻酔中の呼吸循環系モニタリング項目の変化には, 群間に有意な差は認められなかった. 以上のことから, 術中リドカインCRIによって顕著な呼吸循環抑制を生じることなく, セボフルラン要求量を減少できると結論された. —キーワード: 犬, 術中持続静脈内投与, リドカイン, 笑気, セボフルラン.

----- 日獣会誌 63, 286~291 (2010)

† 連絡責任者: 山下和人 (酪農学園大学獣医学部獣医学科伴侶動物医療教育群)

〒069-8501 江別市文京台緑町582 ☎・FAX 011-388-4792 E-mail: yamasita@rakuno.ac.jp